



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2017年10月1日

10月号・第189号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一



歴文研修会・五斗長垣内遺跡

Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます



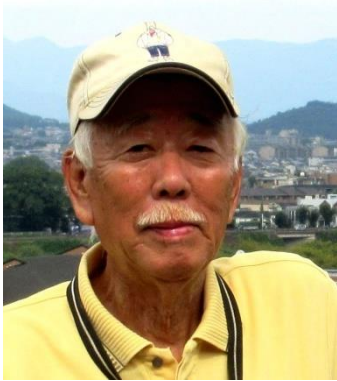
URL <http://www.naranature.com>

川井秀夫氏を偲ぶ	1・2	8,9月・自然観察会・報告	11
壮春力歩	3	9月・歴文研修会・報告	12
多土済々	4	ギャラリーならやま	13
Monthly Repo.ならやま	5	ならやまプロジェクト	14
里山の今	6・7・8	行事案内part1	15
青垣春秋	9	行事案内・予告part2 & 仲間入り	16
夏休みイベント②・報告	10	幹事会報告・編集後記	17

川井秀夫氏を偲ぶ

会長 鈴木 末一

奈良・人と自然の会創始者 川井秀夫さんが、去る9月10日にご逝去されました。惜別の情耐えがたく、ここに、ご功績を讃えますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



いまから16年前の平成13年9月24日の設立総会において初代会長に推挙され、以来7年間にわたり、リーダーシップを存分に発揮していただきました。無から有に向けて傾注されたエネルギーは、

筆舌に尽くしがたいものがあります。時代を先取りされた先見性、豪胆にして繊細な決断力と実行力、強者に向かう胆力、信念に満ちあふれた、卓越した持論など、今日まで頼れるボスとして、私たちにとってかけがえのない牽引車でありました。

往時を偲び、折に触れ時に当たり語りかけられましたお言葉を改めて胸に刻み、ご遺志を受け継いでいきたいと思ひます。

先ずは、発足に際して、「ロートルピッチャーが先発して、どこまで投げられるのか不安はありますが、幸い多才なスタッフに恵まれ、また会員各位の熱い思いに支えられながら、全力投球したいと決意を新たにしております。

ネーミングが『奈良・人と自然の会』と決まりました。人も自然の一部であれば、わざわざ人を分離して表現することもない訳ですが、この100年の間、人間の所業には、傲慢・独善による行き過ぎた科学技術の乱用、資源の浪費、飽食、汚染、破壊など、人間社会と自然環境の共生のバランスが大きく崩れつつあります。

自然の持つ多くの事象について学んだことを、色々な媒体を通して次世代に伝承していく務めがあると考えています」とのご決意を表明。

平成17年1月の会報誌への新春雑感として、「個性的な集団として、『前へ前へ』の精神で頑張っておりますが、反省点も多く、今年度の課題として、何をおいても定例行事の継続であり、会員各位のご満足いただけるような新鮮な企画の確立。第二には行政機関との疎通をさらに推し進めること。第三には財政面の充実、新規加入者の促進、他力本願ですが公的機関の資金提供…。第四には、

社会活動の面でより広く関与し、自然環境保全思想の情報発信と啓発、市民に対する伝承者としての役割を果たすべきと考えます。最後に内外の活動グループとのコンタクトも必要に応じて取り組み、相互扶助と情報収集にも留意したいものです」とのご助言をいただきました。

平成20年1月には、会報誌で「現実をベースに垂直思考に立脚し、社会貢献活動においては、『地域との密着』『行政との連携』『子どもたちの居場所づくり』など、与えられたステージで立体的な構築を試みたいと考えます。また観察会においても『歩く』『観る』『感じる』『考える』『会話する』など、五感を充分活用できる企画を検討してまいります」と述べておられます。

そして、本年4月、「新時代への布石」と題して、病床から役員たちに次のようなご提言をいただきました。

『自由』『実践』『安全』『融和』『人間力』を根底に置き、諸問題を取り上げてみました。

① 世代交代

高齢化の進むなか、新世代の方々との新陳代謝を促進する。新世代の方々も次の時代は我々がこの屋台を担ぐんだという気概を持って欲しい。

② ユートピア構想の推進

一昨年提案した構想も段階的に進み（西池 南斜面栗林の整備・養蜂の配置。入口三角点の高木植樹。竹林の整備。林縁部の低木植樹など）、成果が顕著で謝意。新提案として、佐保自然の森の平坦部に果樹林を育成し、総合的にキッズランドとして、自然教育の場として活用しては如何。この場合、黒髪山CFとの連携を視野に入れる。

『学習の森』『遊びの森』の再整備。畑地と接する林縁部の高木除去など。水道・電気の最低限のインフラ導入問題、トイレ・駐車場の再整備…。

今年、会の歴史の節目を越え、「夢と未来」へ向けた新時代が始まりました。初心を忘れず、新しい会の未来像に向けた体制作りが喫緊の課題です。皆さんの叡智を集め、より良いステップ・アップを実現できるよう、どうか川井さん、天上から見守ってください。お願いいたします。

大先達 川井大兄を悼む

参与 古川 祐司

川井さんとの出会いは15年前のことでした。シニア自然大学のOBが生駒で棚田の復元活動を始めたと聞いて早速見学に行き、川井会長にお目に掛かりました。この棚田での出会いが私のボランティア活動の始まりとなりました。

平成19年4月、当会の発展の契機となった「ならやまプロジェクト」が発足します。資金の見通しもないまま、川井会長の英断でスタートしました。金がなければ知恵を出そう。無理せずマイペースで「明るく、楽しく、無理せず、諦めず」の合言葉が生まれました。川井さんは、阿部新会長とプロジェクト責任者の私に任せて、三井物産環境基金の助成金の導入など物心両面で強力なバックアップをしてくださいました。

平成24年、古事記編纂1300年に歴史文化クラブがスタートしましたが、川井さんの蘊蓄の深さにはいつも驚かされました。また、ご自分の足でコツコツ踏査して、発表される「隠れ古社寺ひとり歩き」シリーズは、新しい発見と秀逸な紀行文で楽しませていただきました。

川井さんは「蒲公英」という句会を主宰される俳人で、会報の「自然俳句」のコラムを創始されました。現在は「俳句百景」となって多くの仲間が気軽に参加して楽しみながら自然への感性を深める場となりました。

川井さんは昭和の男子の風貌を備え、広い識見を持つ教養人でした。信念に基づくぶれない言動は、志を以て集まる仲間にとっての大黒柱であり、大いなる先達でありました。

川井さん、一緒にゴルフや酒を楽しみ、自然を愛し、俳句や歴史談義に興じた日々は、私の人生にとって珠玉の時空であり、この後も心の中で生き続けるでしょう。公私にわたるご指導とご交誼、真に有難うございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

川井秀夫さん 逝く

顧問 阿部 和生

通夜：愛用のジャンパーに帽子、いつもの慈愛あふれる笑顔、遺影見上げ、強く奥歯をかみしめました。「急いでしまったね……どうして？」

退院の小康を得て自宅でくつろぐ川井さんは「阿部ちゃん、毎年の住友生命のエコ俳句の選句・選者は辞退したよ、迷惑掛けない分別、まあ地道に養生するよ」と暑さにめげず快活でした。9月に入って変化がありご家族に看取られ旅立たれました。

シニア自然大学校での毎年の小学生のエコ俳句は、直近5万余句に及ぶ応募に増加していました。「珠玉の句を見逃さず」と目を通すことに大変な精力を割いておられました。「俳句は仕事を離れてからの事よ、でも今は生活の一部」と昇華させ、情熱を傾け、「会」のみならず多くの人をひきつけておられました。人間の脳は年を取ってからでも発展の余地があるそうですが、まさにそれを実践されていたね。歴史文化クラブでの解説などメモすら持たず滔々と話され脳細胞のフレッシュさを垣間見たことです。太い声で若々しかったものの。

「一人でやれることはちょっとしかないけれど仲間と力を合わせてやるとぐっと伸びる。それが大事よ」と常々言われてました。多くのご教示は、今も私の宝です。16年間の貴重で濃厚な時間を過ごさせていただいたことに今はただ感謝です。

「ユートピア構想」を提案され「里山10年、まだまだ忙しくなりそう！」鶏年賀状の添え書きもこれからと意欲的でした。病が全てを持ち去りました。

残念！悔しい！寂しい！もう会えないですね。いまは安らかにお休み下さい。

しかし、まだまだこれからも見守って下さい。

川井秀夫さんを偲ぶ会 ご案内 10月28日(土)午後5時から
ホテル・リガーレ春日野にて 会費 4千円(男性)3千円(女性)
参加申込：10/15締め切り・弓場厚次まで
発起人：(代表)阿部和生、古川祐司、弓場厚次
青木幸子、鈴木末一、豊島すみ子、西谷範子、坂東久平、森英雄、吉村さつき

壮春力歩

会長 鈴木 末一

◆ミツバチ君との共作！？

今年の春から夏野菜、とりわけ「ナス」「カボチャ」などが大豊作です。そしてとても美味です。その要因として考えられるのは、エコ・ファームの皆さんの弛まぬ努力の成果であることは否めません。それと、忘れてはならないのは、今年“仲間”入りした「ミツバチ君の頑張り」であると思います。豊作と美味はミツバチ君たちとの共同作業ではないでしょうか。

以前、一度だけ巣箱を設置してもらったことがあります。しかし、紆余曲折があつて僅か一年で撤去せざるを得ませんでした。今年、多くの会員の方々から、再度、養蜂に取り組もうとの声が挙がり、また、日常の世話をみましようとの熱意ある発言もあり、7箱、3箱、3箱と3カ所に計13箱を設置することになりました。

果たして分封（ぶんぽう）してくれるだろうか。それよりも、ならやまの地にニホンミツバチが生息し、蜂玉を作ってくれるだろうか。巣箱の周辺に花畑をつくらないと……。色々な思いの言葉が飛び交いました。

まず飼育場所を用意し、ミツバチが帰巣するのに目印となる切り株などのある場所を選び、春の分封時期に巣箱を設置して、入居してくれるのを待たなければなりません。野生の群れを捕獲するわけです。巣箱と群れの養蜂キットを購入することが出来るセイヨウミツバチとは、飼育の始め方が大きく異なります。ニホンミツバチは、飼育を始めるまでに何年もかかることもあります。捕獲までの道のりが困難な分、捕獲時に感動が得られます。

入居してくれるのを心待ちしていた早春のある日、Iさんから「分封してくれました」との連絡が入りました。1年目からは無理ではないかと思っていた矢先の朗報でした。まず、最初に7箱の内の2箱、そして、暫く期間をおいて3箱の内の1箱にと元気な働きバチが飛び交うのが確認できました。もう1カ所の3箱には、残念ながら入居してくれませんでした。Iさんによると、巣箱の

材木が新しかったり、テープなどの異物が付着していたりすると、鋭敏なセンサーを持っているミツバチは近寄らないようです。

レンゲをはじめとする春の花々が咲き始めると、働きバチたちは蜜や花粉を集めるために忙しく飛び回ります。なんと10kmほど遠方までの範囲で、500近くの花を訪れ、自分の体重の半分ほどの蜜を持ち帰ると、また、蜜を求めて飛び立ちます。天気さえ良ければ1日に10数回も“食料”を探しに出かけるそうです。

一方、この頃の女王バチは毎日盛んに働きバチの卵を産み続け、ミツバチの家族は日増しにどんどん増えていくのです。

ところで、分封または巣分かれというのは、春から初夏にかけて、新しい女王バチ候補たちがサナギへと育つころ、古い女王バチは働きバチからローヤルゼリーを貰えなくなります。女王バチのお腹が小さくなり、産卵が止まると、いよいよミツバチたちの引っ越しが始まるのです。新しい女王バチに巣を譲るために、古い女王バチが沢山の働きバチやオスバチと一緒に巣を離れることになります。このように巣を離れることを分封と言われます。今年は、働きバチたちが飛び交いながら、住み良い場所として、幸い3カ所の新しい巣箱を選んでくれたのでした。

ソヨゴなどの初夏の花が咲く頃には、春に産まれた沢山の働きバチたちも成虫となり、巣の中が最も賑わう時です。女王バチは卵を産む場所がなくなると、オスバチの卵を産み始め、続いて若い女王バチ候補たちを産みます。このようにして次の世代の卵を残すと、古い女王バチは、約半数以上の子どもたちを連れて住み慣れた巣を出ていきます。その後、女王の座に着いた新しい女王バチは、結婚旅行へと出かけ、巣に戻ると、生涯をかけた産卵という大仕事に取りかかるのです。

知れば知るほど興味津々のミツバチの生態について、随時紹介していきたいと思います。

(参照：「ミツバチの不思議なくらし」・酒井哲夫)





歩こう 元気へ！

田矢 恵造さん

顧問 阿部 和生



5月の総会準備を前に「田矢さん入院」が飛び込んできました。2～3日前に出会ったのに？えっ？

自宅で頭が痛いといよめき、奥様の機敏な判断で病院へ、早く適切な治療を受ける幸運に出会われました。

「歩けるは ふだん気付かぬ 大資産」の川柳を胸に、日々病気の回復に力が入ります。なによりもあの「よいお顔」が戻っておられて安心です。

そのころ、年度替わりの時期で、前年度収支、29年度予算書、各担当の実績表・予算書などなどの必須書類作成があり懸念しましたが、順調に仕上げられていて「後は会計監査を残すのみ」という状態でした。会計規模が大きくなり、それに伴ういろんな数値や経過が判る書類が必要になっていて大変なときでしたが、着実な経理処理が進んでいて、大半の書類も仕上がっていたのです。そのお陰で後の処置を滞りなく作成、進められたのです。森副会長・辻本事務局長・下村幹事が即座に対応、それぞれの分担をされて後を進められ各書類が作成され、第11回総会は支障なく終了できたのです。29年度に入り、坂東幹事が各種計表関係を引き受けて下さり、下村幹事共々に順調に運んでいます。

これらのことは「奈良・人と自然の会」の「多士済々」を実感する出来事でした。スムーズに緊急時の対処が進んだのですもの、実力ある人の集団と再認識したことです。

田矢さんは会社を離れられてからしばらくは、全く自由な生活を楽しまれたそうです。ふと思いつき「奈良・人と自然の会」に入られ、また違った世界に刺激され、大いに活動を満喫していたそうです。そのころ先任の会計の方からの交代要請を受けていました。「会計処理に工夫をしていただけの方に担って欲しい！」の切実な思いがあり

ました。田矢さんを知り、幹事そして会計のご担当をお願いしたいと要請し、快く引き受けて下さいました。「ならやま景観整備」が始まってからの会計処理は、大福帳簿からの脱出と計表整備が望まれていました。予算の執行状況表、予算編成資料の作成、部門別経費・消化実績表、毎月の収支実績報告書など田矢さんが主導し、計表作成に秀でた手腕を発揮していただいた結果が今日に繋がっています。

4月の入院生活は、短日の処置で退院されたそうで、素晴らしい治療方法があるのですね！「やれやれ」と一息ついた頃、病魔は再び襲ってきたようで、「それからが大変でした」と闘病生活を振り返られます。今は話される言葉も鮮明で「以前に戻りましたね」、「いやいや自分ではもう一息の感じが残り、少し左手に違和感がある」そうで、慎重に適度な運動や散歩を意識してなさっているそうです。近年にサツキ栽培を始めておられたそうですが、今年は手が回らず、幾鉢も枯らしてしまったそうです。「サツキは悔しい、再挑戦。趣味の木工も復活させたい」と、日常生活にメリハリが加わっています。秋の訪れとともに一段と回復が進むよう願っています。

早く元気になあれ！ でも急がずに。

身体の隅々まで生命力が充ち満ちていた、つい先日までを思い浮かべ、命の濃度を高めていただき、順調な復帰をみんな待ち望んでいますよ。

仲間とともに楽しみましょう！



Monthly Repo. ならやま

八木 順一

8月24日(木) 活動 晴れ 72名+6名

8月も終わりだが、蒸し暑い日の活動になった。熱中症予防のため、水分を十分摂取することや、ならやまで採れたハチミツの紹介、その他自然観察会の報告などが打ち合わせで行われる。シニア生2名に加え SA 1名が来訪した。また近大生も3名訪れ、ビオ活動に参加する。里山 G は倒木や枯死木の処理、エコ G は野菜の収穫に加えソバの種まき、景観 G も同じくソバの種まきに取り組む。またビオ班は池の草刈り、花班は夏花の撤去や花の剪定、パト G は1コース巡回と観察路の整備に向かう。



8月31日(木) 活動 晴れ 74名+2名

日差しは強いが、風が涼しい。また、昼にはそうめんやてんぷらなどが準備され、堪能する。打ち合わせではこれからの活動について話し合う企画会議や「花王みんなの森作り」の看板の紹介が行われたほかに、発電機などへの燃料補給についての注意喚起が行われる。シニア生1名、そして会員のお孫さんの参加があった。里山 G は枯死木の伐倒



と下草刈り、エコ G は大根の畝づくり、そして景観 G は BC 周辺の草刈りに取り組む。また、ビオ班は水生生物調査、花班はアジサイの剪定を中心に、パト G は3コース巡回に加え、枯死木の撤去も行う。その他果樹班は長くなったウメの枝の剪定に汗を流す。

9月7日(木) 活動 曇り後雨 67名

終礼時には雨になり、昼食も食べず立ったままですくさくと終礼を実施。しかし、水田では稲穂が実り、蓮の花が蓮池を赤く彩ったり、案山子が活動を見守るなど、素晴らしい季節を迎えた。打ち合わせでは協働作業や夏時間終了の件、加えて10月例会の実施予告及び参加者募集の件などが連絡される。里山 G は部分皆伐地区の下草刈りや薪割り、エコ G は大根の種まき、そして景観 G は彩の森の草刈り、その他、ビオ班はレンコン畑の整備や池の草刈り、花班はアジサイの施肥、パト G は3コースを巡回したほか観察路の整備を行う。その他果樹班は梅の剪定を完成させる。また、朝一番には協働作業で松林の下草かきを実施。



9月14日(木) 活動 晴れ 68名+2名

涼風の中で、あちこちから作業の音が終日聞こえる。今日から平常時間。朝礼では逝去された会顧問に哀悼の意を表すとともに黙祷を捧げる。本当に寂しく、残念なことである。また、臨時に松の土かきを協働作業で行うことなどが提案される。シニア生2名実習。このうち一名が本日から入会。里山 G は枯死木の伐倒や薪割り、エコ G は大根の種まきと水田の草抜き、景観 G は彩の森の草刈りに取り組む。その他ビオ班はレンコン畑の整備、花班は花畑の掘り起こし、そしてパト G は恒例の巡回とミーティングを行う。

里山グループ

中井 弘

◆「伐木作業とカワラタケ」

里山 G の主要な作業である伐木は、ただ立木を伐倒するだけではない。伐倒木の後処理も重要で、作業は薪に割られ薪棚に保管されて完了する。薪は売られ、ならやま財政に貢献している。

ナラ枯れによるコナラの立枯れは、「ならやま」全域に無数に発生している。強風や豪雨で折れて落下し、太い幹や枝がポッキリ折れて地面に突き刺っているのを見ると恐ろしくなる。

「ならやま」ではコナラの立枯木は直径 50cm 以上の大径木もあるが、30cm 前後が多い。チェーンソーで伐倒し、太い枝を切落す。更に枝払いして薪や櫓木サイズに玉切りする。薪玉を搬出できない場所では、適当なサイズに切落したままで放置するしかない。

2・3 年もすると、カワラタケがびっしり生えてくる。サルノコシカケ科のキノコで、抗癌剤など漢方薬に利用されている薬用キノコでもある。カワラタケは広葉樹だけでなく針葉樹も侵す「木材腐朽菌」の代表種である。立枯木や倒木に無数の傘が屋根瓦のように重なり合って密生する。木材を白色や褐色に変化させ、木材基質を分解する。カワラタケの傘の色は白色・褐色・黒色・藍色などがあり、よく観察すると環紋があり見方によってはきれいだ。

木材腐朽菌には、生きている木に侵入して材質を腐らせる菌もあり、立木の根元にカワラタケが密生している場合は、根から侵入して心材部を腐らせており、幹の風折れを警戒する必要がある。

しかし木材腐朽菌の存在は、森林を清掃して永遠に維持してくれる。もしこの菌の働きが無かったら陸地は枯死木で埋め尽くされるであろう。正に森林における自然の摂理といえる。



「ならやま」観察路にて

**エコファームグループ**

山内 京子

スイスーイと飛び交う赤とんぼ。草むらから聞こえる虫の音色に耳を傾けながら、茄子、ピーマン、唐辛子、南京等の夏野菜を収穫しつつ、冬から春に収穫できる日野菜、カブ、ダイコン、ニンジン、タマネギなどの野菜の種まきを同時進行している日々です。

「畑の石ころ拾いをしよう」と声をかけられる。田畑で作物を育てるのに土作りは入念にする必要がある。特に大根は、「大根十耕」という言葉があるほどよく耕すことが大切だ。さらに土は細かく砕き小石や枝など硬いものがあると根が分かれたり曲がったりしやすいので、できるだけ取り除くことが必要。石ころ拾いの成果が表れてすべすべお肌のまっすぐな大根が育つことを願う。捲種は畝に溝を作り 15 cm 位の間隔で種を一粒ずつ丁寧に捲き、土をかけ布団のようにやさしくチップを置いて水をやり湿らせる。収穫までには、間引き、雑草抜き、土寄せ、追肥など成長に合わせて世話がが続く。

涼しい気候で、日当たりがよく、水はけがよいところを好む大根、葉もおいしく食べられるが害虫がつきやすいカブ、種に毛が生えていて発芽しにくい、寒さや乾燥に強い人参、乾燥には弱い病気や害虫には強い玉ねぎ。それぞれの特性に合わせた世話が必要な野菜たち。一人ではなかなか進まない作業も、エコファームみんなの手を借りるとスイスーイ。率先して手入れされるリーダーに続いてエコファーム全員で作業に取り組み、おいしい野菜をお届けできるように努めたい。

水田では、6 月に植えた稲がコナギ、水葵、ヒレタゴボウなど多くの雑草と競争しながら穂を出して頭を垂れてきた。今まで世話した稲をスズメなどにごちそうするわけにはいかない。佐保台小 5 年生の PC 作品とコラボして、エコファームメンバーの案山子もファッションブルな衣装に身を包み稲を見守ってくれる。スズメも近寄らず無事に刈り取りの時期を迎えることを願っている。

景観グループ

西谷 範子

**パトロールグループ**

山本 隆造

◆「ならやま、里山」

15年前のならやまは、風致地区の法の網をかぶったまま放置されていたこともあり、奈良市内の真ただ中にありながら、昔の自然植物が多く自生していた。

第一駐車場から東に延びる土地は段丘になっていたが、春にはイタドリが乱立した。いろいろなイタドリ料理が昼をにぎわせた。ほかにも野草が出るたびに山菜料理になった。秋にはジャングルのようにになっているコガンピの実も食べた。

ところが草刈機で雑草を刈り、整地が進んでいくと次の年は10本ほど出ただけで3年もするとなくなってしまった。雑草としてみると相当強い植物ではあるが、度重なる刈り取りについに根が途絶えたらしい。

景観整備のための開拓と整地であるから、そうになってしかるべきではある。整備により陽が入るようになると、百本以上も出て壮観だった絶滅危惧種のランはついに途絶え、斜面いっぱいになんて珍らしい植物なども探さないと分からないようになった。

半面、今まで見えなかった植物が突然発見されたりする。これはこれでうれしい事ではあるが、アジサイ園で見つかったヒヨドリバナを保護してやったら、さすが野生！自分の足（根）を伸ばしてアジサイの肥料を取り込み、縦横無尽に枝を広げ巨大化してしまった。楚々と咲くからかわいいのであったが、今年は「あなたは誰ですか？」状態。半分に整枝して柵を作り、支えてやる始末。いやはや！！

新しい植物も次々植え込まれている。近辺の方々の散歩道、自転車道としても栄えてきた。市民の憩いの場になっていくのは喜ばしいことだが、多々あるほかの公園とは一味違った懐かしい里山の風情を保ちたい。「ここへ来るとほっとする」と言われるような憩いの場にしたいものである。

◆ならやま自然観察路

9月に入っても暑い日が続きますが、森の中は少しずつ秋の気配が感じられます。

今年もスズメバチが活発に活動しています。第2駐車場脇の大木の洞に大きな巣が出来ており、巣の上部の穴から多くのハチが出入りしています。ここはならやま会館からの通路にも当たるので、余り近づかないよう注意しましょう。



自然の森に入ると足元にキノコが目立ち始めました。今年も猛毒のカエンタケが確認されました。一見食べられそうなキノコも多く見られます。

いづぞやのキノコ観察会が思い出されます。

「先生えー、このキノコ食べられますかあー」
「食べられますよおー、一度だけはあー。みなさん食べるキノコはスーパーで買いましょうー」。



谷道に入ると立ち枯れ木が目立ちます。自然の森の中でもこの付近は、ナラ枯れ被害が最も激しかった場所と思われます。観察路沿いの危険な立ち枯れ木

は、里山グループにより順次処理されつつありますが、まだまだこれからです。谷道の観察路は幅1.5m程の道ですが、今は笹と草木が繁茂し道の判別が難しい場所も見られます。ナラ枯れにより日当たりが格段に良くなったことで、草木が驚くほど早い成長を見せており、植生が変化することもあります。これまでより頻繁な手入れが必要になると思われます。

立ち枯れ木の幹や枝が落ちて道をふさぐ所も見受けられます。自然の森では常に倒木、落枝の危険があり、風の強い日は立ち入らないなど、通行には十分な注意が必要です。

ならやま虫だより

菊川 年明

◆名句の中の昆虫

***トンボ** 加賀の千代女の作として有名な「とんぼ釣り今日はどこまで行ったやら」という句は同女の作とも、否とも言われている。私の子供の頃のトンボ釣りは、関西で「ぶり」と呼ぶ 60cm くらいの糸の両端に小豆粒大の小石を蠟引き薄紙でくるんで重しにした道具を作り、上空を飛ぶトンボめがけて投げると、トンボは虫と間違えて飛びつき、糸に絡まって落ちてくるという仕掛けであった。狙いはギンヤンマであったが、オニヤンマなどにも応用できるとのことである。トンボ釣りには糸で繫いだ雌を囿として飛ばして、雌に絡みつく雄のトンボを捕る方法もあった。

***セミ** 芭蕉の有名な句「閑かさや岩にしみいる蟬の声」は出羽の立石寺で詠んだものであるが、かつてこの句のセミは何ゼミかという論争が文人小宮豊隆と歌人斎藤茂吉との間にあった。小宮はニイニゼミ、茂吉はアブラゼミを主張して双方譲らなかったが、この句の作られた時期がはっきりしているので、これを手がかりに調べた結果、小宮説（ニイニゼミ）に軍配が上がり、頑固者で知られた茂吉先生も兜を脱いだということである。

***ハエ** 一茶の「やれ打つな蠅が手をする足をする」も有名な句である。昭和の前半くらいまでは家の内外にハエがたくさんいたので、前脚を擦り合わせている姿をよく見たものである。一茶はハエのこの仕草を手（前脚）を擦り合わせて命乞いしている姿に見立て、ハエを打とうとしている人に訴えたものであろう。ハエには脚を擦り合わせる習性があるが、ハエの脚には味や匂いを感じる器官があり、常に掃除をするためということである。



(写真はハエの一種)



ならやま花だより

桜木 晴代

今年の夏の各種イベントで登場したクマのペンダント。今までクマの鼻はドングリの殻斗だけでしたが、今年はヨウシュヤマゴボウの種がその鼻の先にチョココンとのり可愛さ倍増。目も動眼ではなく、アカメガシワの種に。自然物のみのクマとなりました。その後は、「アカメガシワ」と「ヨウシュヤマゴボウ」が気になって仕方ありません。



ならやまではアカメガシワは部分皆伐地に。ヨウシュヤマゴボウは里地で数本が実をつけていました。が、エノコログサやヒメムカシヨモギなどの群生の中に点在していたので、ほぼ刈り取られてしまいました。致し方ありません。

ヨウシュヤマゴボウは、ままごとなどで赤紫のいろみずとして楽しんでいた身近な植物です。

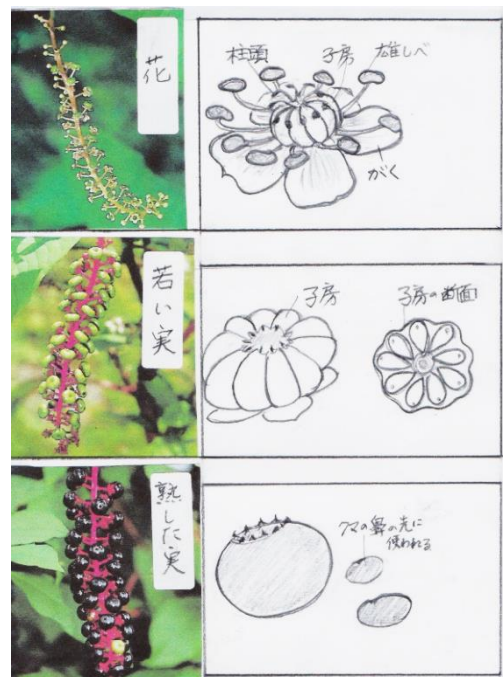
【ヨウシュヤマゴボウ】

*北アメリカ原産の帰化植物

*果実は液果・偏球形 *全身が有毒説あり

*種子は腎円形・10 個ほど

*花は6月から9月、8月から9月に熟す





淡路島と海人族 — 点と線

歴史文化クラブ 古川 祐司

9月12日、歴文クラブは淡路島を訪れ、淡路市と南あわじ市の両教育委員会の担当者から、古代淡路島についての講義を拝聴した。

「古事記の冒頭を飾る「国生み神話」で最初に誕生する島が淡路島である。その背景には、「海人」と呼ばれる海の民の存在があった。彼らは、新しい時代の幕開けを告げる金属文化をもたらし、後に塩づくりや卓越した航海術で畿内の王権や都の暮らしを支えた。」という主旨である。

淡路島の南部海岸一帯には、弥生前中期の銅剣・銅戈と銅鐸が密度高く出土し、ここは北九州と近畿の文化圏の交差点であったことを物語る。弥生時代後期になると、集落は北部の高地に移り、当時期最大規模の鉄器鍛冶集落（五斗長垣内遺跡）が100年以上にわたって営まれ、その後、忽然として消滅する。卑弥呼が登場の直前の時代である。

5世紀、大王の時代には日本書紀に淡路島の海人集団が登場する。応神天皇の妃を吉備に送った漕ぎ手の「御原の海人」、仁徳天皇紀に朝鮮半島に派遣された「淡路の海人」など優れた航海術を以て王権に仕える。また、「御食つ国」として宮廷に海産物や塩を供し、内膳職をつとめる海人族の首長「安曇連」の下で宮廷に出仕する。かくて淡路島の海人族が伝えた島生み伝承は、5世紀の宮廷に浸透して、やがて古事記や日本書紀編纂の過程で、壮大な国生み神話として成立する。

海人族とは、縄文時代から弥生時代以降に朝鮮半島南部から北九州の海で活動した集団である。甲元真之氏の説によると・・・

① 縄文末期、朝鮮半島の西南から済州島、五島列島、北九州をつなぎ、初期畑作と支石墓を伝

えた集団。②弥生時代、対馬・壱岐を経て北九州に至るルートで水稻栽培と金属文化を伝えた集団。③弥生後期、沖の島から対馬の東を経て朝鮮半島の南部に至るルートを開拓した集団。に分かれる。安曇氏は②、宗像氏は③、より古く漁労文化の色彩の強い五島列島や薩摩半島の阿多隼人は①である。

安曇族の発祥は筑前国糟屋郡安曇郷。北九州志賀島一帯を本拠とし、弥生時代から対馬・壱岐を経由して朝鮮半島・中国との交流に携わったが、後に本拠地を離れて全国に移住する。九州から瀬戸内海を経由して近畿各地から三河（渥美郡）、伊豆半島（熱海）、山形県（飽海郡）に達し、安曇・渥美・熱海・泉・志賀などの地名を残す（異論も多い）。川を遡った一族は長野県安曇郡に達する。穂高神社は信濃の安曇氏が祖神を祀った古社で、志賀島から全国に散った後の一族の本拠地とされる（奥穂高岳山頂には穂高神社の嶺宮がある）。

宗像族は、宗像市に本拠を置き、弥生後期に沖ノ島から対馬東海岸を経由して朝鮮半島に至る海のルートを支配した。畿内勢力に結びついて、海洋豪族としての地位を確立し、宗像地方と響灘西部から玄界灘全域に至る膨大な海域を支配した。飛鳥時代、宗像大社は神郡に指定され、大領の宗形徳善の娘尼子娘は、天武天皇の妃となり高市皇子を生み、大和朝廷中枢と親密な関係にあった。

弥生時代の前・中期に淡路島で銅鐸を祀った淡路島の海人族は、海上輸送を担い、「御食つ国」の民として宮廷に仕えて祖先の島生み伝承を語ったのだろう。他方、弥生後期に鉄鍛冶工房村を営んで、忽然と姿を消した技術集団の行方は？ 気になる「点と線」である。

夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②

小島 武雄

「8月19日（土）夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②」が開催されました。



「ならやまベースキャンプ」は素晴らしい天候に恵まれ、幼児を含む子供35名と保護者23名の計68名の参加者が集まり、当会会員39名がスタッフとして対応しました。みんなで記念写真撮影の後、4班に分かれて午前中のカレー作りが緑陰広場で始まりしました。

猛暑の中、飯盒炊爨をするかまどの熱気のすごいこと。子供たちが包丁で野菜を切るの、見ている方がハラハラ。飯盒は各班5個ずつ受けとり、お米洗いは可愛い手でしっかりとできました。かまど作りでは、マッチの使い方から木の枝の燃やし方、火の熱気や煙たさなど、普段体験できないことを、子供たちは元気に嬉しそうに、また真剣にやってくれました。そして、漂ってくるカレーの匂いを嗅ぐと誰しもお腹がグーッととなります。



しかも今日は特別の、自分たちで作ったカレー！おいしくておいしくて何杯もお代わりする子も。

また食事の後片付け、20個の飯盒洗いも、みんな仲良くやってくれました。

午後は、お楽しみの「里山の探検」。子供たちは2グループに分かれ、ヘルメットを被って山の中へ。里山Gが工夫して準備した仕掛け。最初の冒険はロープで山の斜面登りです。緩急2コースと通常観察路の3コース。湿った枯葉道はロープに掴まっても足が滑ってなかなか思うようにはいきません。人気の一番きつい登りは、むしろ大人の方が大変でした。登りきった所は「遊びの広場」。丸太をくくり付けたロープのブランコ、梯子で高いところまでの木登りや丸太渡り、子供たちのバランス感覚が素晴らしい。6ヶ所も作られたこんな遊びは普段できません。キャーキャーとみんな夢中です。あっという間の30分。まだまだやりたいけど！観察路を下りながら、椎茸ホダ木や、皆伐地域を通り抜けて戻ります。



次は、「自然工作」です。丸太のペンダントに木の実や枝を貼り付けて、思い思いの昆虫や、顔を上手に作りました。それぞれ個性的でなかなかの出来栄です。とても素敵。みんなの嬉しくて満足な笑顔！保護者の方にも十分楽しんでいただきました。

最後にアンケートに記入してもらい、お土産に鹿の折り紙を手渡し。

熱中症を心配しましたが、参加者スタッフ一同事故なく、午後3時、「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！②」は無事に終了しました。

事前のイベント準備、当日のスタッフの皆さま、大変暑い中、最後までありがとうございました。

担当幹事（中井、桜木、小島）

8月 平城宮跡自然観察会
(燕の埒入り) 報告

自然教室だより

9月『佐保台小学校
放課後子供教室』報告

辻本 信一

8月22日(火)、平城宮跡にて「燕の埒入り」見学とそれに先立ち植物観察会を実施しました。

集合は午後5時。とはいえ、まだまだ残暑厳しい中、8名の方にご参加いただきました。

ツバメが集まりだす日暮れまでの時間を利用し、まずは、平城宮跡に豊富な蔓性植物を主とした秋の植物観察のはじまりです。



【イザ、出発】

【資料を参考に、】

「ヤブガラシ」については、中央で左・右に分かれる蔓の巻き方、一日の内に雌雄が入れ替わる生態をみんなで観察。他にも「ヘクソカズラ」、「ガガイモ」、「ツルマメ」、「カナムグラ」など、事前に配布された資料の内容を基に、目からうろこの観察会を満喫していただきました。

その後一行は大極殿西側ヨシハラ前に移動燕の到来を待ちます。



【夕焼け空に燕の影】

日暮れと共に雲間に見える太陽は一段と輝きを増し、あたりを黄金色に染めます。それを合図に燕の一団が続々登場。いきなりクライマックスを迎えます。その場に居合わせた「野鳥の会」のメンバーの方から、最近では太陽電池のソーラーパネル設置などで燕にとって快適な場所が少なくなり、その分平城宮跡に集まる燕が増えたとか、その数万羽とお聞きし、思わず納得してしまいました。

辻本 信一

9月6日(水) 佐保台小学校放課後子供教室の子供たちを対象に校庭の昆虫観察会を実施しました。昨年同様、事前の予報では当日の天気は雨。体育館内での雨バージョンによる実施も覚悟しておりましたが、これまた昨年同様、気まぐれな天気の回復が功を奏し、当日は気温も下がり、秋の気配を感じる絶好の昆虫採取日和となりました。



【網を持って全員集合】

【懸命の昆虫採取】

参加した子供たちは総勢56名。それに対し私たちスタッフは14名で佐保台小学校からも8名のコーディネーターの方が参加協力してくれました。

事前の下見では少なく思えた昆虫もどこに潜んでいたのか、草むらを容赦なく分け入る子供たちに次々と追い出され、思いのほかの大収穫。(勿論、観察後は全ての昆虫をもとの校庭にリリース)

トノサマバッタ、ショウリョウバッタ、ウスバキトンボ、オンブバッタ、クサキリ、クルマバタモドキなど、昨年に引き続きたくさんの種類の昆虫をゲットし子供たちも大満足。その後二部屋に分かれトンボやヒマワリのペンダント作りをみんなで楽しみ、個性溢れる作品が並びました。



【みんなで楽しくペンダント作り】

最後に、昆虫観察会に因み、シュロの葉で作ったバッタを子供たちにプレゼント。みんな大喜びで私たちも大満足の日でした。

歴史文化クラブ9月研修会

国生み神話と弥生古代遺跡の淡路島

坂東 久平

9月12日、歴史文化クラブ研修会を開催。参加者27名で、朝から大荒れで大雨警報の発令される豪雨の中、8時に西大寺駅前を出発した。

今回は、神話で有名な、「オノコロシマ」やヤマトの島々をお生みになったイザナギノミコトを祭る伊弉諾神宮と、弥生前期頃に作られた松帆銅鐸や、弥生後期の鉄器の生産基地・五斗長垣内遺跡を巡り、最後に奈良時代の淳仁天皇の御陵に参拝して、淡路島の歴史を勉強した。

激しい雨は収まり、計画通り10時に淡路島ハイウェイオアシスに到着した時には、小降りとなり、以降は殆ど降られずに済んだ。

車中、古川さんの国生み神話、青木さんの古事記解説などがあった。イザナギとイザナミの最初に作った子供が「蛭子」であったので、蘆舟に乗せて流した。今は西宮の恵比寿神社に祭られているそうである。

最初の訪問地「絵島」は、数あるオノコロシマ候補の一つである。この島は、地質学的に珍しい褐鉄鉱沈殿砂岩層（約二千万年前の砂岩層）でできており、珍しいものを見ることが出来た。

五斗長垣内遺跡に行く車中で、中井さんの古代の鉄器生産について解説を聞いて、予備知識を蓄えた。遺跡は、1世紀後半から2世紀にわたる鉄器生産の鍛冶遺構で、標高200mの丘の上にあった。

遺跡では、片山学芸員の出迎えを受け、早速詳しい



説明があった。原料鉄の入手ルートは不明であるが、アマ族が関わっていたようである。炭焼きは無く、消し炭を使用しており、再現実験で1,300度まで温度の上昇が確かめられて

いる。講義の後、復元された鍛冶工房などを見学した。

大変面白く、広々とした遺跡で楽しい時間を送ることができたが、大幅に時間を超過し、30分遅れで、伊弉諾神宮到着となった。予定では、高田屋嘉兵衛公園の芝生広場で昼食を取ることにしていたが、雨で濡れていたもので、参拝後に車中の昼食となった。

バタバタと参拝と昼食を済ませ、次の松帆センターに向かう。車中で坂東の、銅鐸についての解説を行い、遅れて到着した。

お願いしていた、定松学芸員のお話を聞く。淡路島では、銅鐸、銅剣が沢山出土しており、銅剣が14本も一度に出ている。松帆の銅鐸は大変珍しく、3組が入れ子状態になっており、舌（銅鐸を鳴らす棒）も揃って見つかった。（舌の出土は珍しい）

定松さんの話はかなり予定を超過し、30分遅れの出発で、最後の訪問地、淳仁天皇陵に向かう。

淳仁天皇は孝謙天皇の次の第47代天皇であるが、実権は藤原仲麻呂がにぎり、専横が目立っていた。淳仁天皇が孝謙上皇の道鏡との関係を糾したため、上皇は激怒し淳仁は廃帝となり淡路島に流され、この地で亡くなる。葬儀も墓も無かったが、光仁天皇の時に陵を設けた。



淳仁天皇陵にて

奈良時代からは、天皇陵も古墳ではなく、円丘となっている。

予定の15時に出発し、途中ハイウェイオアシスでお土産を買い、バスは順調に走って、西大寺には17時40分に到着した。お天気はスッカリ回復し夕映えが美しかった。



▲水彩画「柿」 山本 妙子



▲「真鍮板製電気機関車」 菊川 年明



▲油絵「格子のある家」 永井 幸次



▲陶芸「多肉鉢」 西岡 正平



▲陶芸「おすまし猫」 小島 武雄

皆様からのご応募をお待ちしています。
絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品・
パッチワーク・切り絵・自然工作など

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

10月	5 (木)	12 (木)	19 (木)
	26 (木)		
11月	2 (木)	9 (木)	16 (木)
	23 (木)	30 (木)	

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）

◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

① J R平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統

8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統

8：36 発 J R奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）



◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参ください。



◆ 連絡先：八木 順一

里 山

10/5 「協働作業の日」松林の土掻き

12

里山林の枯死木伐倒・枝整理
植樹付近の下草刈り・薪割り
イベント準備

19 26

里山林の枯死木伐倒・枝整理
植樹付近の下草刈り
薪割り・薪棚作成



エコファーム

10/5 「協働作業の日」松林の土掻き

茄子、唐辛子、ピーマン撤去・後片付け・耕耘
果樹：柑橘類への施肥

12

水田畑周りの草刈り・稲掛け用の竹の準備
果樹：ブルーベリーの移植準備ピートモス+鹿沼

19

稲刈り（佐保台小学校、会員）雨→10月26日（会員）
蕎麦畑のハサ掛け資材切り出し・備品準備
果樹：ブルーベリーのネット回収

26

脱穀作業（会員） 雨→11月2日
蕎麦畑のハサ掛け設置
果樹：ブルーベリーの苗木定植と成木の移植

景 観

10/5 「協働作業の日」松林の土掻き

整備：BC 周辺の草刈り・整備

ビオ：レンコン掘り・池の整備

はな：ジャーマンアイリス園の草取り

12

整備：佐保自然の森草刈り

ビオ：西池生物調査・レンコン掘り

はな：東入口花壇の草取り整備

山野草園の草取り整備

19

整備：実りの森草刈り・竹林切り出し

ビオ：レンコン掘り・池の整備

はな：山野草園の草取り整備

26

整備：彩りの森草刈り・整備

ビオ：レンコン掘り・池の整備

はな：花壇3か所の木枠取り換え（作業日不明）

パトロール

10/5 「協働作業の日」松林の土掻き

12 観察路3コースの笹刈り

丸太階段補修・倒枝木処理

19 26

観察路谷道の笹刈り・丸太階段補修・倒枝木処理

行事案内 part 1

(例研) 10月一泊研修旅行のご案内 阿波の国・土佐の国へ行こう！

高知県立牧野植物園・桂浜・杉の大杉・大歩危・祖谷のかずら橋の自然に触れる！！

◆牧野植物園：高知が生んだ日本植物分類学の父、牧野富太郎博士の業績を顕彰するため、1958年高知市五台山の頂上付近に開園。約6haの園地には四季折々約3,000種類の植物をはじめ牧野富太郎記念館、温室、50周年記念庭園、土佐の植物生態園など見どころがいっぱいです。

また徳島の大歩危小歩危、祖谷のかずら橋の散策、大豊町にある日本一の大杉、赤岡町の絵金蔵、高知城などを見学します。

宿泊は全室オーシャンビューの国民宿舎桂浜荘です。

【実施要領】

期日：10月10日(火)～11日(水) 雨天実施

集合場所：近鉄西大寺駅南側 8時

持ち物：飲み物、雨具、観察用品など

参加費：26,000円(バス代、料代、昼食代、各入園料)

募集人数：28名 先着順で締め切ります。

世話人：小島武雄・桜木晴代・青木幸子・富井忠雄

申込先：富井忠雄

【行程】

1日目：近鉄西大寺駅8時発→淡路オアシス→井川池田IC(昼食)→大歩危小歩危→かずら橋→杉の大杉→絵金蔵(高木酒造)→国民宿舎桂浜荘

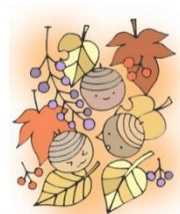
2日目：桂浜→牧野植物園(昼食)→高知城→脇町(うだつの町)→淡路SA→西大寺駅18時頃



自然教室チーム 10月観察会のご案内 秋のならやま自然観察会

私たちの活動の場である「ならやま」の自然にあらためて目を向けていただき、里地・里山の豊かな植生を皆さま方に肌で感じていただこうと、今年は、これまでに1月、3月、5月と3回の自然観察会を実施してまいりました。

今回は、爽やかな秋空の下、昔から多くの人に親しまれ愛されてきた秋の七草をはじめ、実りの秋にふさわしく色とりどりの果実を実らせた草木を訪ねる「ならやま」での自然観察会第4弾を実施致します。



「活動日にはなかなか時間が取れず、これまでじっくりとならやまの植物を観察する機会がなかった」とおっしゃる方、「これを機によく見る植物の名前を知りたい」とおっしゃる方、「ならやままで活動以外ののんびりとした時間を持ちたい」とおっしゃる方、みなさん奮ってご参加ください。

記

①日 時：平成29年10月17日(火)

午前10時～午後2時前後(予定)

※雨天の場合は中止致します。

雨天の場合の判断：前日の19時前のNHKの天気予報で午前60%以上は中止

②場 所：ならやまベースキャンプ

③持参物：弁当、飲物、ルーペ、あれば図鑑

④内 容：私たちの活動の場である「ならやま」の里地・里山林を気楽に散策。「ならやま」の豊かな植生を肌で感じていただきます。



⑤担当：自然教室チーム

(桜木・山本美智子)

行事案内 part 2

公開イベント

芋掘りイベントと自然観察会のご案内

暑かった夏にもようやく終止符が打たれ、あちこちで虫の音が聞かれます。待ちに待った実りの秋の到来です。今年もならやまではたくさんの農作物を収穫する事ができました。

そのめぐみに感謝し、恒例の「芋掘りイベントと自然観察会」を、平成 29 年 10 月 14 日（土）、自然環境教育の一環として公開イベントで、「ならやまベースキャンプ」において下記要領で実施いたします。

午前中は子供たちを中心にみんなで芋掘りを楽しみ、芋の大きさ（重さ）や蔓の長さのコンテストを行います。また昼食時には、収穫したお芋をふんだんに使ったならやま名物の豚汁をみんなでご賞味いただきます。

午後からは里山に入り自然遊びや自然木の伐採体験を通じ、参加者として自然の大切さを学んでいただきます。

会員の皆さまにも秋の好日をスタッフとして、子供たちと共に楽しんでいただければと思います。多数のご応募お待ちしております。

①日 時：平成 29 年 10 月 14 日（土）

午前 10 時～午後 3 時

※雨天の場合は翌日 15 日（日）に延期

②場 所：ならやまベースキャンプ

エコファーム、ならやま里山林

③参加者：子供たちと保護者の方約 70 名

④内 容：午前：芋掘り、芋のコンテスト

午後：ならやま里山林にて自然教室（自然観察会）実施

※里山林内で自然遊びと自然木の伐採を体験。里山の自然の大切さを学んでいただきます。

⑤持ち物：軍手・スコップ・お弁当・飲み物・運動靴・服装は長袖・長ズボン・（昼食に豚汁が振舞われますので）汁椀（萱野・中井・平田）

仲間入りしました



内海 緑（うつみみどり）

4 月に入会しました内海緑です。本名です。「一度、鍋パーティーにいらしてくださいネ」と、かねてからお世話になっている当会の吉川公子さんにお声をかけたところ、3 月、やはり会員のご主人がなんと鈴木会長をお誘い下さって、四人の鍋パーティーが実現！

盛り上がったのは、私の母校、郡山高校野球部の甲子園出場の話でした。その合間合間に箸休めのように吉川さんのご主人が巧みに挟まれる“当会へのお誘い”元来山好きですので、自然への興味にひかれ、翌月、見学参加しました。

で、すぐにズキューン♡！その日に入会しました。

今は「出来るだけあの素敵なならやまで時間を過ごしたい」と思っています。仕事のため毎週は参加できませんが、よろしくお願い致します。

末筆になりましたが、先日の内閣総理大臣賞受賞祝賀会では、新参者ですのに、歌の司会をさせていただき、ありがとうございました。皆さんの素晴らしい歌いっぷりと美声に驚き、楽しくて、つい長時間になってしまいました。また歌い騒ぐときはお仲間に入れてください。

=====

11 月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

11 月 2 日 協働作業の日

11 月 30 日 新蕎麦祭り



*自然教室

11 月 27 日（月）秋の奈良公園紅葉狩り

*歴史研修会

11 月 14 日（火）東漢氏の史跡を訪ねて飛鳥を歩く



平成29年・9月度幹事会報告

日時： 8月29日（火）14：00～16：30

場所： 奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：21 名 欠席者：3 名

I 會長挨撈：

- ①暑い中でのならやま活動協力に感謝
- ②「新時代への布石」世代交代、ユートピア構想、水道・電気インフラ設備、トイレ、駐車場再整備等について

II 事務局・会計報告

- ① 会員数 152 名（前月比 1 名減）
- ② 年会費未納者に納付願い送付
- ③ 九州北部豪雨災害義援金納付報告
- ④ 会計報告：7 月度収支報告

Ⅲ 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3か月スケジュール、当月スケジュール確認
 2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明
サマータイムは9/7まで、9/14より平常時間
 3. 活動報告と予告
 - ① 月例研修会（会報記事参照）
 - ② 自然教室（会報記事参照）
 - ③ 歴文研修（会報記事参照）
 4. イベント（報告と予告）
 - ① 8/19 「里山で遊ぼう！②」実施報告
 - ② 10/14 芋掘りイベント実施予定。
担当幹事（萱野・平田・中井）決定
 5. 林業グループコンクール近畿ブロック報告
 6. 林野庁交付金事業進捗状況説明
 7. 各種助成金事業状況報告
 8. 企画会議発足について
次年度年間スケジュール（行事・イベント・予算）、助成金事業取り組み他検討
 9. ならやま野草図鑑データ管理について
- #### IV 広報関係：
- ① ネイチャーなら 10月号編集内容確認
 - ② リーフレット印刷手配について

以上

次回幹事会は 9/26(火)午後 2 時中部公民館

◆ 申し合わせ ◆

- * 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、当該地域の午前の降水確率が60%以上の場合、中止とします。
 - * 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。
- 奈良県北部の降水確率は、奈良気象台17時発表。<http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html>
- * 臨時活動日を月曜日にする事があります。
- (事前に担当役員から連絡します。)



◆ 寒露

秋が深まり、露が冷たく感じられるようになりました。

顧問の川井秀夫氏を失い、会は深い悲しみに沈んでいます。

当会の設立に尽力され、初代会長として基礎を築られました。また、長きに亘りリーダーシップを発揮され、会の発展に寄与されました。

会報誌にも沢山の寄稿を戴き、「俳句百景」「青垣春秋」など、名作、名文が残っています。

歴史文化クラブの代表でした。亡くなられた2日後の研修会では、豪雨の中の出発でしたが、ジンクスで天気は回復しました。(行々子)

川井代表への弔句 古川 祐司

天^{みたま}翔ける御^{のわき}霊安かれ野分晴

会報誌[ネイチャーなら]・第189号

発行：奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末 一

URL : <http://www.naranature.com>



編集チ一ム代表：坂東久平